

### ・ブラジルのサンパウロなどで黄熱が流行

ブラジルで黄熱の患者が増加しています(WHO 2018-1-22)。2017年7月から2018年1月中旬までに35人の患者が確認され、うち20人が死亡しました。ここ数週間で患者数は3倍に増えています。患者発生はサンパウロ州(20人)、ミナス・ジェライス州(11人)、リオデジャネイロ州(3人)など南部で多くなっています。サンパウロ市近郊の Maripora ではオランダ人旅行者が感染し、帰国後に発病しています。WHOは Maripora などで市中感染が発生している可能性があるとの見解を示しています。米国CDCではサンパウロやリオデジャネイロなどの都市部でも黄熱感染のリスクがあるため、これらの地域に滞在する者にもワクチン接種を推奨しています(米国CDC 2018-1-19)。

ブラジルでは2017年初頭から南部のミナス・ジェライス州を中心に黄熱の流行が発生し、6月までに779人の患者が発生しました。この流行は7月には終息しましたが、それ以降もサンパウロ州などで動物の集団感染が報告されており、流行が持続している可能性が指摘されていました。6月までの流行は森林の中での流行でしたが、今回、サンパウロ市近郊で患者が発生したことは、都市型の黄熱流行に変化していることも考えられます。ブラジルでは2月9日からカーニバルが始まるため、日本からも数多くの旅行者が訪問しますが、同国に滞在する際には黄熱ワクチン接種を受けておくことを推奨します。

### ・アジアでのデング熱流行状況

2017年は南アジアでデング熱の患者数が増加しました(ProMED 2018-1-1)。スリランカでは年間約17万人の患者が発生し、30年ぶりの流行を記録しました。インドでは全土で15万人の患者が発生し、ニューデリーでも患者数は9000人にのぼりました。

2018年1月からは、東南アジアのマレーシアでデング熱の患者数が増え始めている模様です(WHO 西太平洋 2018-1-2)。

### ・インドネシアで麻疹が流行

米国CDCはインドネシアへの旅行者に麻疹ワクチンの接種を推奨しています(米国CDC 2018-1-12)。これは、最近になり、オーストラリア、カナダ、台湾などで、インドネシアで感染した麻疹患者が確認されたためです。日本では20歳代後半～30歳代の世代で麻疹の免疫力が低く、この世代の人が麻疹の流行国に滞在する際には、事前にワクチン接種を受けておくことを推奨します。

### ・ニュージーランドで流行性耳下腺炎が流行

ニュージーランドのオークランドで、2017年12月までに流行性耳下腺炎(ムンプス)の患者が1000人以上発生しました(英国 FitForTravel 2017-12-27)。日本では流行性耳下腺炎が定期接種に入っていないため、免疫のない人が多くみられます。流行国に滞在する場合は、抗体測定で免疫を確認するか、

ワクチン接種を受けることをお勧めします。

**・北半球での季節性インフルエンザの流行状況**

北半球では1月になり各地で季節性インフルエンザの流行がおきています(WHO 2018-1-22)。カナダでは例年を上回る患者数になっており、ウイルスの種類としてはB型が多くみられます。米国でも流行がピークに近くなっており、A(H3N2)型が多い状況です。ヨーロッパではB型を中心とした流行がみられています。中国では過去3シーズンに比べて、最も多い患者数になっており、ウイルスの種類はB型とともに A(H3N2)型が検出されています。